

大きく羽ばたいた緑水祭～絆が深まった2日間～

第39回緑水祭を9月14日（水）文化の部、15日（木）体育の部と開催することができました。9月に開催できるのは3年ぶりとなります。まだまだ残暑が厳しいなか、新型コロナウイルス感染拡大で制限の多いなか、この日まで緑水祭の成功を目指して、生徒会本部の生徒たちを中心に、全校生徒が力を合わせ、準備を進めてきました。今年度の緑水祭は、大きな制限がある中で、難しい課題に取り組み、自分の責任を果たそう、仲間と一緒に乗り越えようと努力してきた生徒会役員をはじめとする全校生徒の姿は本当に素晴らしいものでした。

全校生徒全員でつくりあげた体育館のステージを彩ってくれた全校制作や力作揃いの各クラスの学級旗、時間のないなか本当に素晴らしい作品にまとめられました。展示部門に見られる、各学年の校外学習や修学旅行を体験しての作品、総合的な学習の時間のまとめや美術などの授業の作品、文化芸術部の作品、図書委員会による展示や作品、素晴らしい一つ一つの作品には、たくさんの個性や努力が活かされ、一人ひとりの成長の証が感じられました。全日本少年少女武道なぎなた錬成大会で上位入賞を果たすなど各種大会で好成績をあげている、なぎなた部による発表も全員が集中していて、一糸乱れぬ演技で本当に素晴らしいと思いました。県吹奏楽コンクールで金賞となった吹奏楽部の集中力のある、また楽しい演奏を聴くことができ、本当にうれしく思いました。

私が一番感動したのは、各学年合唱です。新型コロナの影響で制約があるなか、ここ数年間、学年合唱をつくりあげることが難しく、すべての学年にとって初めてつくる学年合唱となりました。1年生は「Well Find The Way」と「青葉の歌」に挑戦しました。特に「青葉の歌」はたいへんな難曲で、1年生が歌うにはとても難しい曲です。しかし、3年間歌い継いでいこうとこの選曲となったそうです。この難曲にあきらめることなく、当日まで素晴らしいチャレンジをしていました。これから楽しみな発表でした。2年生の「あさがお」は男女のバランスがとてもよく、素晴らしいハーモニー、演奏でした。昨年度の学級合唱から数段成長した姿がとても頼もしく思えました。応援も素晴らしく、中堅学年として玉幡中を、緑水祭を支えようとする2年生一人一人の想いが、ひしひしと伝わってくる発表でした。そして、圧巻の発表だった3年生・・・。

様々な制約の中で一度もかなわなかった学年合唱を、学年全員でつくりあげようとする想い、そして学年合唱ができる喜びを曲にのせて、体育館中に響かせてくれました。「Amazing Grace」アカペラで歌い上げてくれました。「大地の歌」、力強さと迫力のある演奏でした。私が強く感じたのは、3年生のみなさんの「想い」です。最後の緑水祭にかける「想い」、学年全員で心をあわせ素晴らしい学年合唱を創り上げようとする「想い」、その「想い」がステージに立つ3年生全員の姿から強く感じる事ができたことは、本当に素晴らしいことだと思いました。そして、会場中が感動しました。3年生の真剣な一生懸命な姿が、演奏が、「想い」が、1、2年生をこれからさらに成長させてくれると強く実感しました。

15日（木）の体育の部では、残暑が残るなか、力強く躍動する全校生徒の姿が、印象的でした。制約がある中、各クラスが短い時間の中で、練習を重ね、この日を迎えました。どの競技にも、各クラスが譲れない戦いに真剣に挑んでいました。たくさんのドラマがあり、たくさんの「感動」を私たち見ている者に感じさせてくれました。特に私が印象に残っているのは、3年生最後の長縄跳びです。午後からの強風の中、縄を回すことも難しいなかでしたが、3つのクラスが最後まであきらめずに挑んでいく姿に感動をしました。最後1組が終了のピストル



の後も飛び続けているときに、他の2つのクラスから拍手や声援がおこり、全員で互いの頑張りをたたえ合う姿は、3年生全員の大きな成長を感じた場面でした。本当に素晴らしい最高学年に成長したと感じました。そして、緑水祭の閉祭式。生徒会役員の生徒一人一人からは、「想い」をのせた素晴らしいメッセージが全校生徒に伝えられました。

今回15日(木)の閉祭式の様子も文化の部と同様にライブ配信をさせていただきました。昨年度に引き続き、生徒一人一人の表情がわかるとたいへん好評でした。若干音声か途切れた部分があったようです。これらを修正したものを、また残念ながらご覧いただけなかった保護者のみなさんや生徒のために期間限定でオンデマンド配信をさせていただきます。(9月21日~9月30日)詳細は、ご通知させていただきます。是非ともご覧いただきたいと思います。



子育て談話室②~正解のない子育て 大人の役割とは~

さて、現代社会は、情報があふれて、何が正しくて、何が価値あることなのか、ということが不易なのかなど、とてもわかりにくい時代となっています。この難しい時代に、“子育て”という一大事業を行っている保護者の皆様方に、『子育てのポイント』を提案させていただくのが、このシリーズです。今回もお付き合いの程よろしく願いいたします。次のような文章を見つけました。参考になれば幸いです。

早いもので今年も8ヶ月を過ぎました。今年の残りの期間が、子どもたちにとって平和で充実した期間になることを願っています。

さまざまな技術の進化に伴って子どもたちを取り巻く環境が変化していますが、その中で大切にすべき考え方について述べたいと思います。

まず最大の変化は、スマホやタブレットの普及とネット活用の広まりでしょう。ただ残念ながら、私も長年子どもたちの指導をしていて感じるのが、子どもたちの学習に影響のある能力の低下です。

例えば人の話を聴く力についても、持続することが難しい子が増えています。日常的に動画やゲームなどの刺激の強いコンテンツに慣れているので、それらに比べて刺激の弱いものに対しては、よほど関心が強くない限り、なかなか粘り強く意識を持続させることができなくなっているのでしょう。同様に、文章を丁寧に注意深く読み取る力にも影響が出ていると思います。

一方で、興味のあることに対しては、すごく知識の豊富な子も増えてきています。検索すれば、簡単に大量の知識と情報を手にすることができる環境のプラス面であると考えることができます。

このような状況を踏まえると、大人が自身の過去の経験だけをもとにして子どもを導くことは、未来を生きていく子どもに対して正しいとは限らないのではないのでしょうか。未来にはますます予想できない変化が待ち受けているのです。

まず大人は、「子育てに正解はない」という認識を持つべきだと思います。以前にも述べましたが、全ての物事にはプラス面とマイナス面があります。その両面をしっかりと考察すること、そしてそれを子どもとも共有することです。

ただ私のはっきりと感じるのは、これだけ情報や知識が氾濫する世の中になったからこそ、人としての本質的な力である思考力や判断力、コミュニケーション力や共感力をより身に付けなければならないということです。知識をたくさん身に付けるだけでは価値はありません。知識や情報をどう生かすのかを考える力が問われています。答えのない問いに対して、多くの人の力を結集させてチーム力を高める力が求められるのです。

本質を育てることを念頭に、試行錯誤し続けること。それが大人の役割ではないのでしょうか。(著：黒田耕平)